

1 研究主題について

ともに関わり高め合う子どもの育成
～見方・考え方を磨く授業づくり～

2 研究主題設定の理由

(1) 今日における教育的課題・社会的要請から

現代の子供たちは課題の多い予測できない変化に対応するため、一人一人が受け身で対処するのではなく、課題に主体的に向き合い、自ら切り開いていく力を身に付けることは大切である。その過程をとおして、試行錯誤しながら、他者と協働し、問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題解決につなげ、よりよい社会や幸福な人生を自ら作り出していく力を付けることが重要である。

授業改善を進めるにあたり、特に「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが、「見方・考え方」である。そこで、今年度は「個別最適な学び」と、「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方」を踏まえながら、授業改善を図りたいと考え、昨年度の研究を継続して本主題を設定した。

3 見方・考え方について

深い学びとなる授業を目指すためには、教科等に応じた「見方・考え方」の視点が極めて重要である。この「見方・考え方」は、新しい知識・技能を、既にもっている知識・技能と結びつけながら、社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力・判断力・表現力を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするためのものである。

この「見方・考え方」と育成すべき資質・能力の関係は、既にもっている「見方・考え方」が、習得・活用・探究という学びの過程の中で働くことを通じて、資質・能力がさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりする一方で、その学びの過程において、どのような見方で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか、という物事を捉える「見方・考え方」も磨かれていくという相互の関係にある。

4 研究の方法

(1) 授業実践

・講師招聘の授業研究会

・年3回程度（全体授業研究）

*教科は問わない

指導案検討会・研究協議会(ワークショップ方式・ユニット型研修)

・各自一授業公開

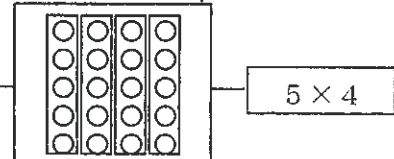
*教科等を問わない

5 研究の内容 「授業案」

第2学年2組 算数科「かけ算(1)」学習指導案 (総時数16時間 14/16時分)

令和4年 11月8日(火) 3校時 2年2組 教室

指導者 赤川 法子

<p>1 主眼 マッチングゲームを通して、被乗数と乗数の意味の理解を深めることができる。</p> <p>2 見方・考え方の具体 (1)見方・考え方の捉え ・数のまとまりに着目し、その幾つ分として、全体を捉えることができる。 (2)主眼に迫るための より具体的な手立て ・式を読み取る力を伸ばすために、読み取った数量の関係を図や具体物を用いて表現することを大切にす。 ・単元を通して具体的な場面を乗法の意味を基に表現することを繰り返し行うことで、場面と式のつながりの理解を深められるようにする。 (3)授業に見られる子どもの姿 ・何のいくつ分かを的確にとらえて、お話に合う図と式を選び、その根拠を説明できる。</p> <p>3 評価 ・乗法の意味を理解し、立式のポイントを説明できる。 (ノート・発表・観察)</p>	<p>かけられる数とかける数</p> <p>Ⓜ 正しく式をたてるポイントを見つけよう。</p> <p>おかしのはこが3はこあります。 1つのはこには、おかしが5こずつ入っています。 おかしはぜんぶで何こありますか。</p> <p>みんなのたてたしき</p> <p>3×5 Ⓞ 5×3</p> <p>1つのはこに おかしが3こ はこは5こ</p> <p>1つのはこに おかしが5こ はこは3こ</p> <p>正しくしきをたてるポイント ・出てきたじゅんにしきにするのではなく、何のいくつ分かを見つけてからしきにする。 ・1つ分をはっきりさせるために、1つ分を○でかこむ。</p> <p>話し合っただをところ ① ○は何? おかし ② □は何? はこ ③ 図はどんな話?</p> <p>＜マッチングゲーム＞ お話に合う図としきを見つけよう。</p> <p>テープを4本つなぎます。テープ1本の長さは5cmです。全部で何cmになりますか。</p> 
<p>本時の流れ</p>	<p>1 乗法が用いられる具体的な場面を見て立式する。</p> <p>T どこを見たら、どんな式になるかが分かるだろう。</p> <p>◆ ICT機器を用いて、図を見て何のいくつ分かを読み取り、立式する活動を通して、乗法の式の簡潔性を実感できるようにする。 ・(一つ分の大きさ) × (幾つ分) = (幾つ分かに当たる大きさ) ・かけ算の式の簡潔さ</p> <p>2 問題を読み立式し、式を読みながらブロック操作をして式を見直す。</p> <p>T 式が表しているのは、どのようなお話になりますか。</p> <p>◆ 2つの式が児童から出てくること予想される。そこで、式に合わせ、箱は色画用紙でおかしはブロックを用いて表し、それを操作することで、2つの式が表す場面と問題文とを対比できるようにする。 ・式の読み ◆ ブロック操作や絵や図をかくなどして、問題場面を正しく理解することで、出てきた順に式にするのではなく何のいくつ分を捉える必要があることを、図を基に押さえる。</p> <p>3 マッチングゲームをして、正しく立式したり、式の意味を読み取ることを見つけたりする。</p> <p>T 何に目を付けたら、マッチングがうまくできそうですか。</p> <p>◆ あえて、数値が一緒の問題を複数準備し、2の活動で学んだ式を読む着眼点を生かして正しく選ぶことが出来るようにする。 ◆ 3人グループで取り組み、数量のまとまりや関係を適切に表せているか確かめ合うことで、立式や式を読むことの力を伸ばす。 ・式の読み ・式表現</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p>